16. 国史跡白山平泉寺旧境内

くにしせきはくさんへいせんじきゅうけいだい

所 在 地：勝山市平泉寺町平泉寺 56 字
調査原因：現状変更（車庫建設）
調査期間：平成 27 年 5 月 25 日～平成 28 年 3 月 30 日
調査主体：勝山市教育委員会
調査面積：157 ㎡
時　　代：鎌倉～室町

位置図（S＝1/25,000）

調査の概要　国の史跡指定を受ける白山平泉寺旧境内は、白山信仰の越前側の拠点寺院跡であり、平成 29 年（2017）には、泰澄が養老元年（717）に白山開山・平泉寺開創してから 1300 年を迎えます。平泉寺の最盛期である室町時代には、48 の社や 36 の堂、6000 の坊院が建ち並んでいたと伝えられ、宗教都市として繁栄を極めていたと考えられます。しかし、天正 2 年(1574)、越前一向一揆との争いに敗れ、全山焼亡しました。

平泉寺の発掘調査は、平成元年（1989）から始まり、全国でも類を見ない規模の中世の石畳道や石垣が確認されています。今回の調査は、平泉寺白山神社本社から 400m 西南西に位置し、境内の南側に広がる「南谷坊院跡」にあたります。

遺構　掘立柱建物 1 棟、井戸 6 基、土坑 5 基、柱穴・小穴 23 基、溝 1 条などを発見しました。特筆すべきことは、鎌倉時代の素掘り井戸から土師質土器と箸が祭祀で使用した後に破棄したと想定される状態で大量に見つかったことがあげられます。

また、室町時代の石組井戸からも土師質土器、箸が多く見つかり、漆器椀・皿なども出土しました。

遺物　破片数で約 4,000 点あまりの土器・陶磁器や木製品が見つかりました。鎌倉時代から室町時代のものです。種類は、多岐にわたりますが、特に土師質土器の多さに特徴があります。他の遺物も井戸と土坑から出土したものが大半で、瓦質土器火鉢・風炉、越前焼甕・擂鉢、灰釉陶器、天目茶碗、中国製陶磁器(青磁・白磁・青花の碗・皿)、漆器（碗や皿)、曲物、下駄、箸、炭化米塊、木簡、ツチノコや汁杓子などの木製品、茶臼、石製のサイコロ、中国銅銭などがみられます。

まとめ　今回の調査地は、平成 15 年（2003）に調査を実施した隣接地で、前回と同様に井戸から大量の箸と土師質土器を発見しました。また、箸の他にも大量の木製品が出土しており、現在、鋭意整理を行っているところです。

前回の調査で見つかった溝の続きが、今回の調査で確認することができ、東西方向に流れる水路であることが改めてわかりました。なお、発見された遺構は埋め戻し、地中に保存しています。

（藤本康司）

写真 1　遺構全景（南から）

写真 2　掘立柱建物（南から）

写真 3　素掘り井戸（南から）

写真 4　素掘り井戸の出土状況（南から）

写真 5　石組井戸（南から）

写真 6　曲物転用井戸（南から）